

「古仁屋中学校の島の考古学講座の取組」

1. 学校名	瀬戸内町立古仁屋中学校
2. 学年・人数	2年生 51人（教職員を含む）
3. 日時・場所	(1) 学習会等の日時・場所 瀬戸内町教育委員会「せとうち出前講座『島の考古学講座』」 令和6年6月21日 瀬戸内町立古仁屋中学校 (2) 発表の日時・場所 現地フィールドワークを実施（地元ガイド案内） 令和6年7月10日 手安弾薬本庫跡、西古見砲台跡 等
4. 活用に取り組んでいる史跡の名称・時代・特徴について	(1) 名称・時代 奄美大島要塞跡（あまみおおしまようさいあと） 近現代 (2) 特徴等 大島海峡を中心に構築された陸軍の要塞跡であり、近代日本の国防政策と密接に関係する遺跡群である。当時の先端技術で造られていることから、歴史を学ぶ遺跡としてだけでなく、土木・建築学的にも重要な遺跡である。
5. 活用の取組において地域との連携や工夫した点等	瀬戸内町教育委員会が開催している「せとうち出前講座『島の考古学講座』」を活用し、瀬戸内町や奄美の歴史について学習した。また、社会の教科書と関連付け、世界における奄美群島の位置や役割、瀬戸内町に残る戦争遺跡の歴史的重要性について学習することができた。埋蔵文化財センターの協力により、実際の遺物に触れて観察を行った。 地域の島案内ガイドに協力頂き、実際の戦争遺跡の巡検を行い、瀬戸内町に戦争遺跡が多く遺る理由についてまとめを行った。また、平和学習の視点を組み込み、修学旅行での学びを再確認した。
6. 取組の様子（研究発表等）	 講座風景（島の考古学講座）  講座風景（遺物観察）
7. 感想・意見 (参加児童生徒・保護者・保存会・教員等)	【生徒】 ・ 古仁屋中学校が、戦争中に使われていた病院だと知りおどろいた。 ・ 古仁屋の地形・区割りが、全然変わっていないことが印象に残った。 ・ 戦争は遠い話だと思っていたけど、戦争の跡があることに驚いた。 ・ 戦争や戦跡など、この大切な話を伝えていきたい。 【講師】 ・ 生徒は、自分の知っている場所の写真や地図が出てくると身を乗り出してモニターを見たり、周囲の人と場所を確認しながら、最後まで集中して講座を受けていた。講話やスライドの内容について進んでメモを取る姿も見られ、意欲的に取り組んでいる様子だった。遺物に触れる際は、匂いをかいだり、「思ったより軽い」などの発言があり、個々人がそれぞれに五感をつかって遺物を観察していた。普段見ることのできない遺物や歴史に触れる貴重な時間をもつことができたと思う。